

ある当事者の言葉から

開会あいさつ

児玉 龍彦

一般財団法人在宅がん療養財団 会長、東京大学名誉教授

◆この原稿を書いている私は、ステージ4の大腸がんです。がんになって3年が経ちました。大腸カメラで検査した当日にがんと告げられ、その10日後には手術、1月後には放射線治療と化学療法が始まり、3カ月後には肺転移のため手術、6カ月後には肝臓転移のための手術と過酷な日々を送ってきました。

がん発覚から1年半後、新たな転移が見つかり、医師からは余命宣告を受け、現在は延命のための化学療法を続けています。

◆がんになって感じたことは、がん治療は情報戦だということです。

「手術をするのか」「抗がん剤をするのか」「放射線をするのか」「何もしないのか」、それを決めるのは、医師ではなく自分です。抗がん剤の副作用や体調不良に対応するのも自分です（もちろん、医師からも様々なアドバイスはありますが）。

50代女性 編集者

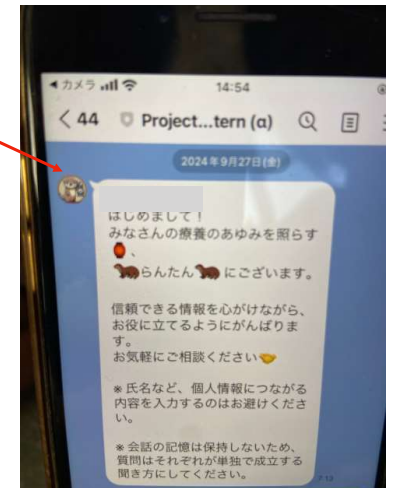
ランタン

- QRコードを携帯のカメラで読み込む
- 左上のカワウソのロゴをクリック
- project lantern (α) で右のサービスページをクリック
- project lantern (β) でLINEでログイン
- 許可する
- 「ランタンに相談する」
- 場合によっては「アシスタント」



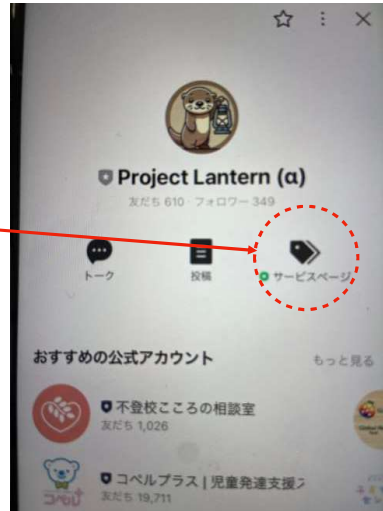
ランタン

- QRコードを携帯のカメラで読み込む
- 左上のカワウソのロゴをクリック
- project lantern (α) で右のサービスページをクリック
- project lantern (β) でLINEでログイン
- 許可する
- 「ランタンに相談する」



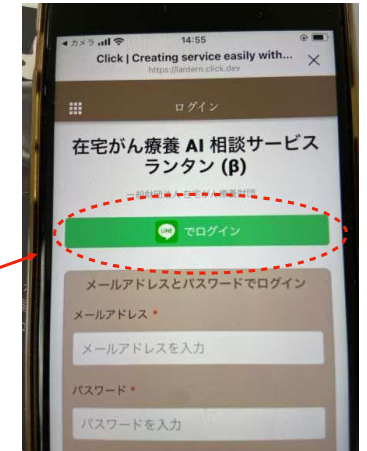
ランタン (β)

- QRコードを携帯のカメラで読み込む
- 左上のカワウソのロゴをクリック
- project lantern (α) で右のサービスページをクリック
- project lantern (β) でLINEでログイン
- 許可する
- 「ランタンに相談する」



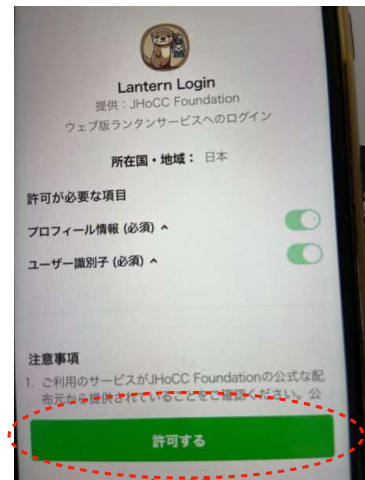
ランタン (β)

- QRコードを携帯のカメラで読み込む
- 左上のカワウソのロゴをクリック
- project lantern (α) で右のサービスページをクリック
- project lantern (β) でLINEでログイン
- 許可する
- 「ランタンに相談する」



ランタン (β)

- QRコードを携帯のカメラで読み込む
- 左上のカワウソのロゴをクリック
- project lantern (α) で右のサービスページをクリック
- project lantern (β) でLINEでログイン
- 「許可する」 をクリック
- 「ランタンに相談する」



ランタン (β)

- QRコードを携帯のカメラで読み込む
- 左上のカワウソのロゴをクリック
- project lantern (α) で右のサービスページをクリック
- project lantern (β) でLINEでログイン
- 「許可する」 をクリック
- 「ランタンに相談する」



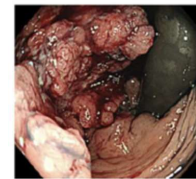
いつでも、誰でも、どこからでも相談できる「ランタン」

- 何を質問していいかわからない。あれよあれよという間に、病状は進み、自分が受けている治療法は果たして正解なのか、この病院でいいのか、なぜこの検査を受けるのか、身体の不調にどう対処したらいいのか。疑問ばかり。
- ランタンならスマホから何回でも相談できる。こうした疑問に、スマホで、いつでも相談できるサイト「ランタン」を開発しました。なんでも聞きましょう。情報（＝知識）は力です。そして希望です。希望があれば前向きに治療に向き合えます。

標準治療の劇的な変化

- 外科手術 「拡大切除」か「てがない」
- 外科手術後に再発が心配 → アジュバント治療
- 手術できない例に術前放射化学 → ネオアジュバント
- 転移も全身化学療法と併用 → トータルネオアジュバント*
- 術前治療がよく効いたら → watch and wait

(* NCCN 2025 Jan Rectal Cancer, Physician 3ヶ月に1回程度 改訂)



治療前



治療後（手術前）

がん研究会ホームページから引用。
<https://www.jfcr.or.jp/hospital/cancer/type/colon/002.html>
 術前の放射化学療法で改善が認められた場合には、切除、全身薬物療法、経過観察でwatch and waitの場合もある。